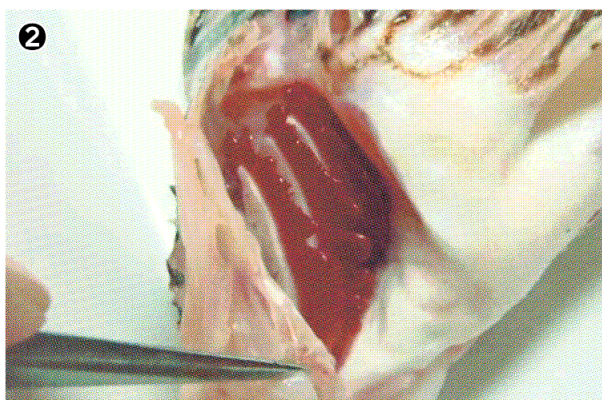
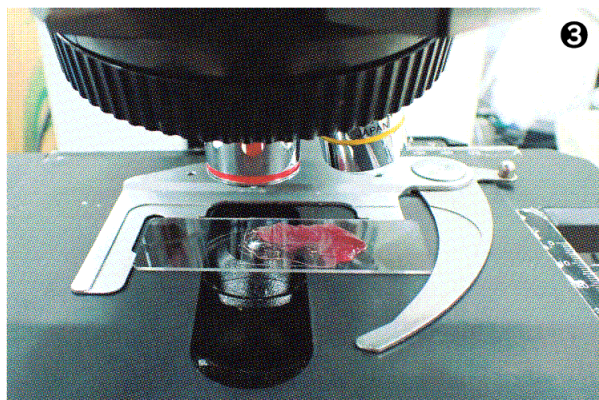
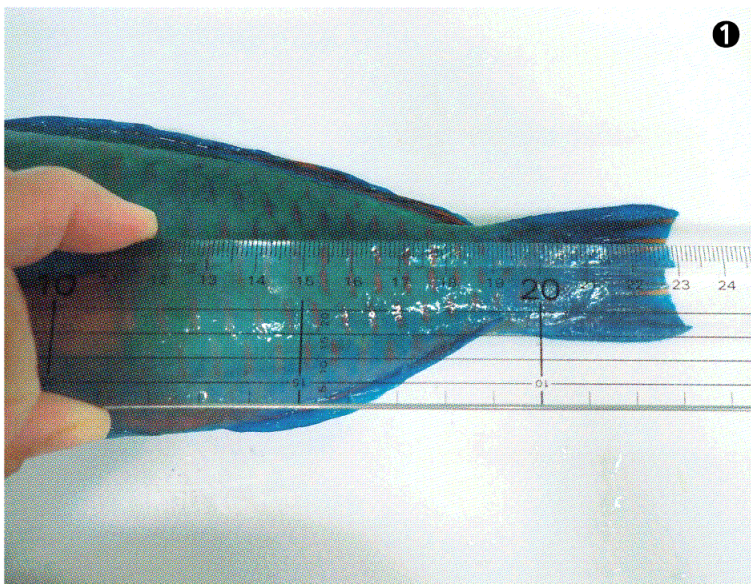
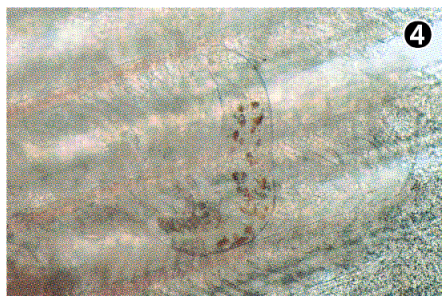


①死んでしまったキビレブダイの全長と体重を測定します②ハナミノカサゴのえらを開き、ライトで照らしてよく確認します③えらを切り取り、顕微鏡でくわしく見ます④スカシテンジクダイのえらにくっついて体液を吸っていた寄生虫。大きさは2ミリくらいです



まず全長と体重を測定します。体重は適正な餌や薬の量を決めるのに必要ですが、泳いでいる時は量れません。こうやって調べておくと、全長から体重を推定できます。次にひれを広げ、ライトで照らして体に傷や出血がないかを確認します。さらに顕微鏡を使って拡大し、細部を見ていきます。魚の体液を吸う小さな寄生虫がひれやえらの中に入り込んでいることがあるか

水族館で飼育する魚は、残念ながら、時には死んでしまうこともあります。死んだ魚を食べることは決してありません。解剖し、なぜ死んでしまったかを調べます。



死んだ魚 解剖して原因探る

からです。寄生虫がつけた傷口から菌が入り、病気の元にもなります。寄生虫が見つかったら、減らすための対策をします。見つからなくても有益な情報です。寄生虫は水槽内に今どれだけいるのか、肉眼では分かりません。抵抗力の弱った魚から見つからないということは、水槽内で寄生虫はまん延しているかと判断でき、他の死因を探ります。最後におなかを開けます。おなかの中には食べ物を消化する器官があり、脂肪がたまっていたら、餌を見直さなければいけません。肝臓や腎臓を調べて細菌感染が分かったら、同じ水槽の魚たちにも菌がいる可能性があるのです。薬を与えます。死んでしまった魚からは多くの情報が得られます。それらをどれだけ読み取り、同じことを繰り返さないための予防や改善につなげていくのか？ その積み重ねが、魚を健康に飼育するためには欠かせないのです。(学習交流係・柏木由香利)